

池原 昭治の

さやまの森本

第99話

せんげん 広瀬 浅間神社の火まつり



に火をつけることをお焚き上げといいますが、このときがお祭りのクライマックスとなり、夜空に赤々と燃えあがる大・小の護摩木、その中を広瀬ばやしが祭りを盛りあげ、夜店では元気な子どもたちの声がおそくまでつづきます。火まつりは養蚕(ようさん)カイコの豊作、子育て安産、鎮火(ちんか)防火(ぼうか)の三つを祈願(ねが)したものとされています。昔はこの季節、さいごのスイカを売ろうと、榎坂(えのさか)にはスイカ売りの店が並んでいたのだそうです。

広瀬浅間神社の火まつりは、狭山市の無形民俗文化財に指定されており、8月21日の夜におこなわれます。

夏休みも終わるころになりますと、市内の水富地区、上広瀬の浅間神社では夏の風物詩「スイカ市」といわれる、めずらしい火まつりがおこなわれます。浅間さまは安産の神さまといわれ、子ども連れのご婦人の参詣者が多いことで有名です。

まつりのポスターには、富士浅間神社鎮火祭と書かれてあって、広瀬講によるお焚き上げという行事があります。三メートルと二メートルほどの桑の枝でつくった護摩木



わかるかな？

今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの中に掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名の方に記念品をさしあげます。官製はがきで、広報課宛お送りください。

締め切り8月31日(当日消印有効)



[7月10日号の写真クイズの答え]

6ページ、狭山市長選挙の投票箱の写真でした。

表紙の写真

江戸時代から伝えられる狭山市の夏を代表する大イベント「入間川七夕まつり」は、8月2・3日に開催され、両日とも晴天に恵まれました。

今年から祭りのPRをお手伝いする「ゆかたスタッフ」が公募によって選ばれ、色鮮やかな七夕飾りとともに会場を一層、華やかにしていました。

折しも、祭り開催日に関東地方の梅雨明け宣言がされ、まさに狭山の夏本番がはじまりました。



オオミズアオ(大水青)

(鱗翅目ヤママユガ科)

羽を広げると約9.5cmの大きな水色の蛾です。学名はActias artemis。月の女神アルテミスがその由来で、大水青という和名も羽の色の美しさからついた名前です。雄の前羽の縁は直線的で、雌は後羽の突起が細長いのが特徴です。外横線は波状でなく直線的で、後羽の眼の紋様は外に飛び出しています。幼虫はハンノキ、クヌギ、カエデ、サクラなどさまざまな広葉樹を食べています。繭は越冬しないものは葉の間に、越冬するものは食樹の根元に作られ、その中で蛹になります。そして、平地から山地にかけて5月と7～8月の年2回発生します。成虫の口は退化していて、樹液などを摂取することはできず、幼虫期に摂取した栄養で活動します。灯火に飛んできて、大きな羽をバサバサさせます。

埼玉県生態系保護協会狭山支部
高橋昇さん(中新田)

広報さやま Vol.577 発行日・平成15年8月10日 発行：狭山市 編集：狭山市総合政策部広報課
〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5 042-953-1111 助042-954-6262
狭山市公式ホームページ http://www.city.sayama.saitama.jp/ モバイルサイト http://www.city.sayama.saitama.jp/mobile/